資料７

地域夢会議における主な意見

［神　戸］

○先端医療都市の実現に向け、留学生を始めとした外国人材の活用が必要。そのためにも、今以上に多様性を受け入れ、日本人の子どもと外国人の子どもが一緒に揉まれ羽ばたいていくような社会づくりを目指したい。

○神戸の自由で住みやすい文化に焦点を当て、六甲山の再生や歴史文化の再発見を進め、それらを観光振興につなげる。また、県の地場産業を神戸から世界に発信していく。

○高齢者や子育て世代に優しいまちづくりに向け、高齢者から若者がお節介に感じないようにｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを図り、まちづくりに手を挙げる人を誘い込むシステムをつくっていく。

［阪神南］

○老夫婦家庭や独居老人が増え、助け合いがますます重要になっている。「住民が集まれる場」をつくってご近所の繋がりを増やしたり、コミュニティバスの整備により高齢者が運転しなくても暮らせるまちを実現することが重要。

○コミュニティの活性化には「交流の場」が必要であり、高齢者に限らず皆一緒に暮らせるグループリビングをつくってはどうか。

○阪神間には特色ある大学がある。阪神地域で「学研都市」をつくり、宣言することにより、県外から学生を呼び込み、域内の若者を増やす。また、食文化をｿｰｼｬﾙﾋﾞｼﾞﾈｽ化し、若者を惹きつけ、あわせて国際的・地域的課題であるﾌｰﾄﾞﾛｽの解決をめざしてはどうか。

［阪神北］

○子育てしやすい社会には、公園等の「心安まる場所」や男性の子育て参加が必要。男性皆がｲｸﾒﾝになれる訳ではないので、男性のできること、男女の役割分担の見極めも重要。

○健康長寿社会の実現には、増えている小学校の空き教室を老人ﾎｰﾑとして整備し、小学校と老人ﾎｰﾑを併設し、高齢者がその小学校の行事に参加するようにすればよい。

○商店街の衰退に関しては、そこでしか使えない「ﾌﾟﾚﾐｱﾑ商品券」を発行し、商店街のｼｬｯﾀｰ街を減らしたり、ﾘｸﾙｰﾄ制度を創設し、閉店する店の後継者を発掘すればよい。

○AI、ﾛﾎﾞｯﾄ等について、産業振興としての取組に加え、子ども向け施設を整備し、子どもへの啓発を進めてはどうか。将来それらの産業に就く子どもを増やせると思う。

［東播磨］

○人口の取り合いではなく、住めば楽しい、安心して住み続けられる地域の実現に向け、人をﾍﾞｰｽに繋がっていく社会をめざすべき。地域課題を行政任せにするのではなく、市民が自分のこととして真剣に考えることが必要であり、そのための雰囲気づくりが重要。

○播磨臨海部は全国有数のものづくり拠点として新たなﾋﾞｼﾞﾈｽﾁｬﾝｽを生み出しうる地域。この地域を中心とする交通ﾈｯﾄﾜｰｸを整備し、産業や観光等の活性化へと繋げるべき。

［北播磨］

○「みんなでやろう、支え合おう」という空気を地域で吹かすことがコミュニティを盛り上げる源。昔から受け継いできた「支え合う」という良いところを残したい。

○集落内の団結力を強めるため、消防団等でリーダーシップの取れる人への支援が必要。今後は、社員が労働時間をやりくりして地域に協力できるような企業の支援も必要

○地域のマンパワー不足に対し、労働力は AI などでカバーし、イベントの企画など人でなければできないことは年金をもらいながら暮らす元気な人でやっていくべき。

［中播磨］

○子どもの情緒を伸ばし、ふるさとを愛する人の多い中播磨にしたい。高齢者が子どもと一緒に遊びながら歴史や伝統を伝える「つどい場」を小学校につくってはどうか。

○人との出会いが不足しているが、出会う方法が分からない。人と人との出会いを増やすため、「おとな大学」をつくってはどうか。

○姫路城など世界的な観光資源を生かした更なる観光振興に向け、姫路駅に開催中のｲﾍﾞﾝﾄを一覧できるｺｰﾅｰを設置したり、播但線を外国人向けに乗り放題にしてはどうか。

［西播磨］

○西播磨の自然や田舎ならではの良さを活かした社会をつくるため、空き家を有効活用する制度や子育て・介護の悩みを話し合う場所を都市部の方に知ってもらい、田舎暮らしの良さをアピールすることが必要。

○西播磨の自然の豊かさを活かした産業を PR することで、豊かなまちづくりができる。行事等の情報は西播磨でまとめ、インターネットを通じて広報するのが有効。

○農林業、地場産業で、西播磨でなければできない産業を育成できる。その際、田舎だからこその働き方をつくれば、都会へ出た若者が地域に戻って力を発揮してくれる。

○近所の人同士助け合い、高齢者が安心して暮らせるまちをつくりたい。そのため、日頃からの近所の集会への参加、学校での避難訓練とｲﾍﾞﾝﾄ実施等の取組があれば良い。

［但　馬］

○地域、家庭の宝である子どもが元気ならば、地域、家庭、周りの人間も元気になる。「夢を持ち、夢を語れる子どもを育てたい」というのが私の夢である。

○但馬に何か「世界一」「日本一」があれば人が集まる。

○年老いると子ども達に支えられるというマイナスのイメージではなく、70、80 歳になっても自分の生き方を自分で選ばないといけない。

［丹　波］

○高校生が地域に残るような教育は可能。篠山には農業の甲子園で優勝するような高校（東雲高校）がある。そこで農業に IT の授業を付加し、農業知識を持った IT のプロフェッショナルを育成し、中山間地域で活躍できる人材に育てていってはどうか。

○多自然地域は多くの資源を持っている。それにもっと誇りと自信をもつべき。また、資源を持っている人が囲い込んで独占するのではなく、シェアできる文化が広まればよい。

○人口減少や高齢化は全国的課題。移住者の視点で見ると、人の取り合いや数字の追求だけでなく、移住者の住みやすさやいったん他地域に出ても地元を愛せる気持ちの醸成が重要。また、自分たちがどれだけ汗をかいてこの地域で暮らすことを楽しんでいるかが、これからの未来へつながる。

［淡　路］

○2030 年は古民家の多くが子どもや高齢者の施設になっている。そこで、高齢者の徘徊や子どもの見守りにﾛﾎﾞｯﾄ等を活用すべき。一方で単純に IT を導入するのではなく、社会的労働に対する対価として「地域通貨」を導入し、地域でお金を回すことも考えるべき。

○人口減を逆手に取り、空き家となった古民家を有効活用する。例えば、ハワイのように別荘地の島として売り出し、外国からも人が集まるようにすればよい。

○淡路は南海地震の被害が県内最大。各地域で住民がｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを密にし、災害意識の向上を図り、災害に強いまちづくりを進めるべき。特に、防災訓練の継続が重要。